

大腿骨近位部骨切り術を受けられる患者さんへ

患者ID
氏名

担当医
担当看護師
配布日

	入院:1病日 /	2病日 /		3病日 /	4病日 /	5病日 /	6～9病日 / ～ /	10～11病日 / ～ /	12病日 /	13病日:退院 /		
	手術1日前	手術当日(手術前)		手術当日(手術後)	手術後1日目	手術後2日目	手術後3日目	手術後4～7日目	手術後8～9日目	手術後10日目	手術後11日目	
達成目標	・手術後の経過について理解できる			・循環動態が安定している		・離床ができる				・退院指導の内容を理解できる		
				・脱臼症状がない(随意運動ができる、関節の変形がない) ・深部静脈血栓症症状(下肢の腫脹、しびれ、熱感、発赤、チアノーゼ、変色)がない ・腓骨神経麻痺症状(背屈ができない、下垂足、知覚障害)がない ・禁忌部位が守られている								
								・38.0℃以上の発熱がない ・創部の浸出液、発赤がない				
	・痛みによる苦痛がない											
内服	・薬剤師が、持参薬および服薬状況について確認します 					・痛み止めを1日3回、毎食後に内服します (7日間) 						
手術・輸血		手術 		・貯血をした場合は、自己血を輸血します 								
注射		・点滴をします 			・点滴を抜きます							
検査	・採血 ・レントゲン ・身長・体重測定  			・採血 		・採血 		・採血(手術後4日目) ・採血/レントゲン(手術後7日目) 		・採血 		・体重測定
処置	・弾性ストッキングを着用します			・フットポンプをつけます					・医師の指示後、フットポンプを外します		医師の指示後、弾性ストッキングを脱ぎます	
				・手術室で尿の管を入れます		・尿の管を抜きます						
				・手術室で創部に管(ドレーン)を入れます		・創部のドレーンを抜きます						
				・ブレパントを着用します		・ドレーン抜去の翌日に、ブレパントを脱ぎます						
食事	・夕食後は、指示された時間から、飲食はできません 			・医師の指示後、飲水できます。食事はできません		・朝食(常食)から開始となります						
				・ベッド上安静ですが、看護師の介助で頭元を上げることができます			・ドレーン抜去後、医師と共に車椅子に移乗します ・その後は、看護師付き添いで、完全免荷で車椅子に移乗できます					
				・排泄はベッド上で行いますので、ナースコールでお知らせください			・トイレを使用できます					
				・洗面、歯磨きを介助します			・身体を拭きます ・計画的に洗髪をします			・シャワー浴ができます		
リハビリ				・リハビリテーションが始まります 								
説明	・入院オリエンテーションを行います ・医師が手術の説明をします ・手術室の看護師が、手術に伴う確認や諸説明をします ・本用紙を用いて、治療スケジュールについて説明します ・転倒転落予防について説明します ・深部静脈血栓症予防について説明します ・術前オリエンテーションをします			・「股関節の手術を受けられた患者さんへ」のパンフレットを用いて、退院後の生活について説明します								
				・薬剤師が、退院後の薬剤について説明します								
その他	・同意書は職員にお渡しください ・手足の爪を切り、マニキュアは落としてください ・化粧は落としてください ・深呼吸、床上運動、床上排泄などの術前訓練をします 【必要物品】 ・T字帯 2枚 ・平オムツ1枚 ・曲がるストローまたは箸のみ ・スプーンやフォーク(必要時) ・柄付きブラシ ・リハビリテーションで着用するズボンや靴			・痛みがあれば鎮痛剤を使用しますので、我慢せずにお知らせください ・深部静脈血栓症予防のため、足首の反り返しや膝の曲げ伸ばしを行ってください   								
				・病棟スタッフが、退院処方の必要性や処方の確認を行います								

診療計画、入院期間は現時点での予定です。今後、状態の変化によって変更されることがあります。不明な点がありましたらいつでもお尋ねください。